

科目名 健康支援援助論Ⅱ 時間割表記名 健康支援援助論Ⅱ	配当時期 2年次 単位数 1単位 時間数 30時間(15回)	講義担当者 高木佳寿美 上野拓美	
事前学習内容 事例に用いる疾患については事前に病態生理・治療・看護を学習して臨む。			
授業目標 1. リハビリテーション期にある対象および家族の身体的・精神的・社会的特徴を理解できる。 2. その人らしい生活を再構築していくための支援について理解できる。 3. リハビリテーション期にある対象および家族に対し、多職種チームで連携しながら社会復帰に向けた支援を理解できる。			
DPとの関連 DP1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された生活者として理解することができる。 DP2. 一人ひとりの健康状態に応じて、最善の看護を選択し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。			
授業の流れ			
回	学習内容	方法	備考
1 2	【事例展開】 脳機能に障害(脳梗塞)のある患者の看護(成人期) 情報収集	講義 演習	テキスト②
3 4	【事例展開】 脳機能に障害(脳梗塞)のある患者の看護(成人期) アセスメント	講義 演習	テキスト①③④
5	【事例展開】 脳機能に障害(脳梗塞)のある患者の看護(成人期) 看護問題の明確化	演習	
6 7	【事例展開】 脳機能に障害(脳梗塞)のある患者の看護(成人期) 関連図の検討 入計画の立案	演習	
8	【事例展開】 脳機能に障害(脳梗塞)のある患者の看護(成人期) 介入計画の立案	演習	
9	脳機能に障害(脳梗塞)のある患者の看護(成人期) 1)チームにおけるコミュニケーションの促進 2)社会復帰に向けた多職種チームとの協働 3)薬物を継続するための支援		※9回目は45分

10 11	1. 運動器機能に障害(変形性膝関節症)のある患者の看護	講義 演	テキスト⑤
12 13	1. 運動器機能に障害(関節リウマチ)のある患者の看護	講義 演習	テキスト⑤
14	1. 運動器機能に障害(脊柱管狭窄症)のある患者の看護 (老年期) 1)退院後の生活支援 2)退院指導	講義 演習	テキスト⑤
15	試験	試験(筆記)	
受講上の注意 ○多職種連携についてワークで体験しながら学習を進める。			評価方法 筆記試験 レポート 成果発表
使用するテキスト ①系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野 成人看護1 成人看護総論 医学書院 ③系統看護学講座 専門分野 成人看護7 脳・神経 医学書院 ④系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 医学書院 ⑤系統看護学講座 専門分野 成人看護学 10 運動器 医学書院 ⑥看護診断のためのよくわかる中範囲理論 黒田裕子 医学書院 参考文献 ①系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践1 看護管理			